

目次等

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-09-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032270

■総説 性差医療

(1) 乳腺外科領域…………… 神尾孝子… 1- 6

■報告

川崎病の治療経過中に認められた偽性高カリウム血症の 1 乳児例…………… 杉本 圭・
千葉幸英・鏑木陽一郎・
金子裕貴・鶴田敏久・永田 智… 7- 12

骨転移に対するビスフォスフォネート製剤投与中に
非定型大腿骨不全骨折を発症した副乳癌の 1 例…………… 地曳典恵・
岡本高宏・清水由実・神津教倫… 13- 16

■学会・研究会抄録

第 359 回東京女子医科大学学会例会（2019 年 2 月 23 日）…………… 17- 26
平成 30 年度東京女子医科大学医学部・基礎系教室研究発表会（2018 年 12 月 22 日）…………… 27- 29

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

(TOKYO JOSHI IKADAIGAKU ZASSHI)

Volume 89 Number 1 February 25, 2019

Review: Gender Medicine

(1) Breast Surgery

Takako Kamio. 1-6

Reports

Pseudo-hyperkalemia Observed in a Patient with Kawasaki Disease during Treatments

Kei Sugimoto, Yukihide Chiba, Yoichiro Kaburaki,

Hiroataka Kaneko, Toshihisa Tsuruta, Satoru Nagata. 7-12

Incomplete Atypical Femoral Fracture Related to Long-term

Bisphosphonate Therapy in a Case of Accessory Breast Cancer with Bone Metastasis

Norie Jibiki, Takahiro Okamoto,

Yumi Shimizu, Noritsune Kouzu. 13-16

Proceeding

The 359th Regular Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University

(February 23, 2019). 17-26

性差医療

執筆者	所属	内容	掲載号
神尾孝子	乳腺・内分泌外科	(1) 乳腺外科領域	89 (1)
片井みゆき	総合診療科	(2) 代謝内分泌領域	89 (2)
近藤光子	呼吸器内科	(3) 呼吸器領域	89 (3)
佐藤加代子	循環器内科	(4) 循環器領域	89 (3)
内田啓子	学生健康管理室/腎臓内科	(5) 腎臓領域	89 (4)
石黒直子	皮膚科	(6) 皮膚科領域	89 (5)
清水優子	神経内科	(7) 神経内科領域 免疫疾患（妊娠～産褥）	89 (6)

第 359 回東京女子医科大学学会例会

日 時 2019 年 2 月 23 日 (土) 13:00~17:40

会 場 総合外来センター 5 階 大会議室

開会の辞
挨拶

司会 (幹事) 佐藤麻子
(会長) 吉岡俊正

平成 30 年度研究奨励賞授与式 13:02~13:15

選考経過報告

(学長) 吉岡俊正

山川寿子研究奨励賞 (第 31 回)

1. ステロイド依存性頻回再発型微小変化型ネフローゼ症候群における小児期発症と成人期発症によるリツキシマブ治療効果の相違についての検討

(腎臓内科学) 中谷裕子

佐竹高子研究奨励賞 (第 27 回)

1. 1 型糖尿病における遺伝子多型の研究

(糖尿病・代謝内科) 三浦順之助

中山恒明研究奨励賞 (第 5 回)

1. 糖鎖分子マーカーを用いた胆道癌の高感度診断システムの開発

(消化器外科学) 樋口亮太

平成 29 年度受賞者研究発表 13:15~14:00

座長 (幹事) 清水京子

佐竹高子研究奨励賞 (第 26 回)

1. 新規血管新生抑制因子 LYPD1 の機能部位の同定
2. 血中 uromodulin の臨床的意義に関する研究

(先端生命医科学研究所) 青木信奈子

(八千代医療センター腎臓内科) 臼井亮介

中山恒明研究奨励賞 (第 4 回)

1. ハイブリッド型人工神経による新しい顔面神経再建手術法の確立

(形成外科学) 松峯 元・亀井 航・櫻井裕之

一般演題 14:00~14:10

座長 (幹事) 清水京子

1. 肛門周囲 Paget 病の 1 例

(東医療センター外科) 水口知子・山田泰史・横溝 肇・成高義彦

< 休 憩 >

司会 (幹事) 小森万希子

第 13 回研修医症例報告会 14:20~17:40

[発表 7 分, 質疑応答 3 分/○発表者, ◎指導医]

開始の挨拶

(卒後臨床研修センター長) 川名正敏

Block 1 14:25~15:15

座長 (東医療センター外科) 岡山幸代・(小児外科) 山口隆介

1. Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy (PTTM) 様組織変化を示した胃癌肺転移の 1 例

(¹八千代医療センター卒後臨床研修センター, ²病理診断科, ³呼吸器外科, ⁴消化器・一般外科,

⁵脳神経内科, ⁶画像診断・核医学科) ○原田桜子¹・◎山本智子²・

神崎正人³・山本雅一⁴・北川一夫⁵・坂井修二⁶・長嶋洋治²

2. 反復する誤嚥性肺炎の精査で過去の気管切開に関連すると考えられた気管食道瘻の1例
(東医療センター¹卒後臨床研修センター, ²麻酔科, ³形成外科, ⁴外科) ○横山智穂¹・◎岡村圭子²・
西山圭子²・市川順子²・小高光晴²・中尾 崇³・島川 武⁴・小森万希子²
3. 巨大脾腫を契機に診断に至ったサルコイドーシスの1例
(¹卒後臨床研修センター, ²消化器内科) ○山梨裕希¹・◎児玉和久²・田原純子²
4. 胆管癌異時性S状結腸転移の1例
(東医療センター¹卒後臨床研修センター, ²外科, ³検査科) ○秋元佑介¹・◎山田泰史²・
横溝 肇²・中安靖代²・久原浩太郎²・浅香晋一²・碓井健文²・
塩澤俊一²・吉松和彦²・島川 武²・勝部隆男²・加藤博之³・成高義彦²
5. 胸部大動脈瘤食道穿破と鑑別を要した食道潰瘍の1例
(東医療センター¹卒後臨床研修センター, ²救急医療科) ○内山まり子¹・◎庄古知久²

Block 2 15:15~16:15

座長(東医療センター内科) 石川元直・(八千代医療センター小児救急科) 武藤順子

6. 腸閉塞によるショックで救急搬送され、救命できなかった乳児症例1剖検
(八千代医療センター¹卒後臨床研修センター, ²小児救急科, ³小児科, ⁴小児外科) ○川口朋子¹・
◎武藤順子²・濱田洋通³・幸地克憲⁴・高梨潤一³
7. セルトラリン(SSRI)が奏功した重度の月経前不快気分障害(PMDD)の1症例
(東医療センター¹卒後臨床研修センター, ²精神科) ○川口憲治¹・◎大坪天平²
8. 左手を挙げ笑いだす10歳男児
(¹卒後臨床研修センター, ²小児科) ○村田紗貴子¹・◎西川愛子²・
伊藤 進²・佐藤友哉²・石黒久美子²・平澤恭子²・永田 智²
9. 低カリウムが唯一の所見であった甲状腺中毒症性周期性四肢麻痺の1例
(東医療センター¹卒後臨床研修センター, ²内科) ○久保田哲嗣¹・
マーシャル祥子²・◎石川元直²・佐倉 宏²
10. 18病日に冠動脈病変を認めた川崎病の1例
(東医療センター¹卒後臨床研修センター, ²小児科) ○米川知里¹・◎本間 哲²・
長谷川茉莉²・志田洋子²・杉原茂孝²
11. 左副腎皮質髄質混合腫瘍の1例
(¹卒後臨床研修センター, ²乳腺・内分泌外科, ³病理診断科) ○大石 愛¹・◎吉田有策²・
羽二生賢人²・安川ちひろ²・永井絵林²・藤本美樹子²・尾身葉子²・
堀内喜代美²・山本智子³・長嶋洋治³・岡本高宏²

<休憩>

Block 3 16:25~17:25

座長(東医療センター産婦人科) 長野浩明・(血液内科) 吉永健太郎

12. 術前の子宮動脈塞栓術が有効であった、巨大頸部筋腫の1例
(東医療センター¹卒後臨床研修センター, ²産婦人科, ³放射線科) ○松崎貴成¹・◎一戸晶元²・
高瀬瑠璃子¹・古川由理²・立花康成²・赤澤宗俊²・橋本和法²・
長野浩明²・村岡光恵²・高木耕一郎²・片田芳明³・鈴木 滋³
13. 肝細胞癌術前に偶発的に発見された左房粘液腫の1例
(¹卒後臨床研修センター, ²循環器内科, ³病理診断科, ⁴消化器・一般外科, ⁵心臓血管外科) ○尹 星恵¹・
◎齋藤千紘²・鈴木 敦²・新井光太郎²・板垣裕子³・
小寺由人⁴・齋藤 聡⁵・新浪博士⁵・山本雅一⁴・萩原誠久²

14. 妊娠中の腎盂腎炎に対して尿管ステントを留置した1例
(東医療センター¹卒後臨床研修センター,²救急医療科) ○濱崎樹里亜¹・◎庄古知久²
15. 著明な体重減少のみを主訴に受診し、複数の診断モダリティを使用し診断し得た左房粘液腫の1例
(¹卒後臨床研修センター,²循環器内科) ○紀川朋子¹・◎服部英敏²・
菊池規子²・鈴木 敦²・志賀 剛²・萩原誠久²
16. 多診療科の集学的加療により治療し得たフルニエ壊疽の1症例
(¹卒後臨床研修センター,²救命救急センター,³消化器・一般外科,⁴形成外科,⁵泌尿器科) ○若生 翔¹・
齋藤眞樹子²・◎久保田英²・武田宗和²・矢口有乃²・
大森亜紀子³・小寺由人³・櫻井裕之⁴・池田敬至⁵
17. 肝尾状葉に浸潤した副腎皮質癌に対し外科的切除を施行した1例
(東医療センター¹卒後臨床研修センター,²泌尿器科) ○本間俊佑¹・◎近藤恒徳²

総評

ベストプレゼンテーション賞表彰式

閉会の辞

司会(幹事) 小森万希子

記念撮影

〔平成 29 年度佐竹高子研究奨励賞受賞者研究発表〕

1. 新規血管新生抑制因子 LYPD1 の機能部位の同定

(先端生命医科学研究所) 青木信奈子

心臓を構成する細胞として最多細胞数を占める線維芽細胞は、拡張障害や線維化などへの関連が示されているがいまだその特性についての理解は十分でない。発表者は組織工学的に心筋組織を構築する過程で心臓線維芽細胞が血管内皮細胞のネットワーク形成を抑制することを新たに見出し、その責任分子として新規血管新生抑制因子 LY6/PLAUR domain containing 1 (LYPD1) を同定した。LYPD1 は glycosylphosphatidylinositol (GPI) アンカー型の膜結合型タンパク質として主に脳神経系での発現が報告され、ノックアウトマウスを用いた研究では不安行動との関連が報告されているが直接的に血管新生に関連した報告は殆どないことに加え、その機能や相互作用分子などに関する詳細な報告は現状極めて少ない。心臓線維芽細胞が血管新生抑制的に働くことやその責任分子が LYPD1 であるというコンセプトは発表者によって初めて提唱されたものである。そこで LYPD1 による血管新生抑制の作用機序を明らかにすることは、心臓線維芽細胞の特性を理解し、心臓間質の関わる生理、病理的現象を解明する新たなアプローチとなると考え、LYPD1 の機能部位の同定を目的として LYPD1 変異型リコンビナントタンパク質を調整し、その血管新生抑制効果を評価する研究を行った。

2. 血中 uromodulin の臨床的意義に関する研究

(八千代医療センター腎臓内科) 白井亮介

〔目的〕慢性腎臓病患者数の増加から、より有用な腎バ

イオマーカーの創出が望まれている。近年、血中ウロモジュリン測定により腎機能を推定できることが報告された。ウロモジュリンは腎臓特異的に発現している蛋白質であり、腎臓由来の蛋白質で腎機能を推定する全く新しい方法である。我々は独自に血中ウロモジュリン測定のための酵素免疫測定法 (ELISA) を作製し、これを用いた腎機能の評価を行った。本研究は当院倫理委員会にて承認を得て実施した (承認番号 4602)。〔方法〕独自にモノクローナル抗体を樹立し、抗原エピトープの異なる 2 種の抗体を使用した。血中ウロモジュリン濃度測定のためのサンドイッチ型 ELISA を作製した。対象は健常人から慢性腎臓病ステージ 1~5 まで計 171 名 (男性 97 名、女性 74 名、年齢 55.7 ± 15.0 , BMI 24.9 ± 4.5) とし、対象者の推定糸球体濾過量 (eGFR) 値と血中ウロモジュリン濃度との相関解析を行った。〔結果〕血中ウロモジュリン値とクレアチニン換算 eGFR 値との相関係数は 0.75、シスタチン C 換算 eGFR との相関係数は 0.77 であった。〔総括〕血中ウロモジュリン測定により腎機能を評価することが可能であり、さらに、シスタチン C 換算 eGFR とも高相関であることから、血中ウロモジュリンは早期の腎機能低下が検出可能なマーカーと考えられた。

〔平成 29 年度中山恒明研究奨励賞受賞者研究発表〕

1. ハイブリッド型人工神経による新しい顔面神経再建手術法の確立

(形成外科学) 松峯 元・亀井 航・櫻井裕之

Bell 麻痺に代表される顔面神経不全麻痺は突然健常人に発症し、さらに急性期に保存的治療にて寛解の得られない症例は重篤な後遺障害を残して罹患者の quality of

平成 30 年度東京女子医科大学医学部・基礎系教室研究発表会

日 時：2018 年 12 月 22 日（土）9：30～12：30

場 所：東京女子医科大学弥生記念講堂地下 A 会議室

主 催：基礎医学系教授会

1. Cell Sorter MoFlo を用いた微量細胞画分の解析と分取 (薬理学) 三島大志
2. 海馬体と嗅内野を繋ぐ線維連絡の解析 (解剖学) 本多祥子
3. 各代謝疾患モデル（心血管・肝・腎）における EPA 投与の効果とそのメカニズム (病理学（実験病理学分野）) 廣瀬織江
4. 大脳皮質一次体性感覚野における痛覚情報処理領域 (生理学（神経生理学分野）) 尾崎弘展
5. 中間周波電磁界の発生源である IH クッキングヒーターの普及と出産アウトカムに関する生態学的研究 (衛生学公衆衛生学) 佐藤康仁
6. 法医学における変性試料の DNA 解析 (法医学) 町田光世
7. 母語獲得過程を考慮した教授法開発にむけて：WH 疑問文誤用例の通言語的比較研究 (英語) 遠藤美香
8. シミュレーションおよび ICT を活用した臨床技能教育プログラムの取り組み (医学教育学) 山内かづ代

1. Cell Sorter MoFlo を用いた微量細胞画分の解析と分取

(薬理学)

三島大志

近年の技術革新により、複数のレーザーや検出器を搭載したフローサイトメーターが開発され、これまでの形態学から飛躍的に進展してきた。またフローサイトメーターのデジタル化により、高感度かつ定性・定量的な測定が迅速に行えるため、臨床や研究の現場と活用範囲は広い。一方、測定には煩雑な操作ステップを経るため、施設間の解析データのバラツキが示唆されている。そのためデータの取扱は十分な配慮が必要であり、再現性・信頼性の高いデータを得るためには、適切なコントロールや蛍光の漏れ込み補正（コンベンション）が必要である。

当研究室では担がんモデルを用いた転移前微小環境の形成に関する研究を行っている。本発表では、担がんマウスの肝臓と転移前肺との間の細胞輸送の動態解析を行うために、KikGR マウスを用いた in vivo 細胞追跡システムの研究について報告する。KikGR は紫色光を照射すると緑色から赤色に光変換する蛍光タンパク質である。我々は、担がん KikGR マウスの肝臓に紫色光を照射することで細胞を標識し、72 時間後の肺を解析した。肝臓から肺に移動する微量細胞画分を分取した結果、その細胞集団は抗転移能があり、転移性の腫瘍細胞を死滅させることができた。

これらの研究にはフローサイトメーターは必須だが、試料中にごく僅かしか存在しない細胞集団の解析・分取には困難が伴うため、注意すべきポイントを紹介する。

2. 海馬体と嗅内野を繋ぐ線維連絡の解析

(解剖学)

本多祥子

海馬体と嗅内野はいずれも記憶形成回路の基本構成要素をなす重要な脳領域である。近年これらの領域に空間記憶や脳内ナビゲーションに関わる様々な位置情報細胞の存在が知られ注目を集めているが、その間を繋ぐ詳細な線維連絡については未解明な部分が多い。私共はこれまで、主にラット海馬体-海馬周辺皮質領域間の線維連絡を解剖学的な手法で解析してきた。その結果、海馬体への主要な情報入力源である嗅内野浅層には、嗅脳溝にほぼ平行な帯状ユニット構造が存在することを見出した。即ち嗅内野浅層において海馬体 CA1 や海馬台の局所へ投射する細胞群はほぼ同じ長軸と幅の帯状に配列し、また海馬体を巡った情報を再び嗅内野へ戻す経路の中継点である前海馬台についても、局所からの投射終末が嗅内野浅層で帯状に分布していた。この嗅内野へ投射する単一前海馬台ニューロンの軸索分岐形態を調べたところ、終末分岐が嗅内野浅層内で plexus を形成し、前述の帯とほぼ同じ範囲に終末するものがあることが分かった。嗅内野の帯状ユニット構造はウサギにも見られたことから、動物種を超えて保存された基盤的構造であると推測